

財政通信 N 0.6

平成18年11月

ご無沙汰しました。m(_ _)m 財政課長です。9月議会で決算が承認されて、ほっと一息(^_^;)A, それもつかの間。

財政課では平成18年度12月補正予算の調製に加え、平成19年度の予算編成作業が始まって、テンション上がってます！

前回の財政通信発行から今まで財政担当が何をやってたか？を小学生の日記風にお知らせします。

7月10日

今日は、普通交付税等の算定ヒアリング。いつもより早起きして県庁に行きました。

今年の算定額は起債も合わせて約32億5千万円、今年予算額とほぼ一緒、でも去年より1億4千万円減りました。お父さんに聞いたら、平成15年は、今年より11億円くらい多かったそうです。お母さんが「財政改革推進プログラム」で節約したお金が全部無くなったって、なげいていました。

7月20日

今日は、「公共施設状況調査」の提出日でした。龍ヶ崎市にある道路や学校、公園などすべての施設の調査なのでいっぱいあって大変です。昔、お父さんがやったのを見せてもらいましたが、学校も公園もずいぶん増えていました。

8月2日

今日は、9月補正予算の締切りでした。でも ちゃんがちょっと待ってって言うから、少し待ってあげることになりました。でもお母さんに「締切りは守るように言いなさい」って怒られました。

8月3日

今日と明日は、県庁の人が来て、交付税の検査です。2年分なので資料がいっぱいです。わからないところは、他の課のみんなに手伝ってもらいました。みんなありがとう。

8月7日

今日から9月補正予算の調製です。お母さんからは「貯金(財政調整基金)を戻しなさい」って、お父さんからは「お盆前に終わらせなさい」って言われました。頑張らなきゃ！

8月25日

議会が始まるってお手紙がきました。やっと決算も予算案もまとまりましたが、僕は説明する役なのでちょっと緊張しています。何を聞かれるのだろう？

8月31日

もう夏休みは終わりですが、一番大事な宿題(財政推計)が終わってません。お母さんに「採点(第二次財政健全化プラン策定)するから、早くしなさい」って言われました。

財政担当はこんな夏を過ごしました。

そして9月議会、なんとか乗り切り、決算承認、補正予算成立。(^^)v

さてと、平成19年度予算編成を始めるか。おっと、12月補正もまとめなきゃ。
あ～、「財政推計」と「第二次財政健全化プラン」も仕上げなければ…。
よし、まずはスケジュール管理だ！予定表だ！一応できたぞっと課員に示す。
「そこは、特別交付税要望がありますよ。」「…修正」「これは、日の説明会の後がいいんじゃないですか」「…修正」「う～ん、もうこれで行く！みんな頑張ってくれ」と予算編成のスタートとなりました。

最初に、予算編成方針の調整。国の方針は相変わらず厳しい。(T_T) 国の財政健全化(歳出・歳入一体改革)は第一期(小泉改革)に引き続き、基礎的財政収支の黒字化(2011年)目指した第二期改革を早々と表明。

当然、地方歳出の抑制も織り込み済み。地方六団体等の反発は必至ですが、安倍政権においても歳出削減を徹底すると明言されていますから、地方にとっては厳しい状況が続きます。

平成19年度は「三位一体の改革」による税源移譲が「国庫交付金」から「住民税」に移行する。今までの「理論値」から市の「実収入」に移行、つまり、市の賦課徴収の実績がそのまま財政状況を左右する(当然か)こととなります。(国の理論値の徴収率を実際の徴収率が上回れば、増収となります。逆だと… 全庁・全職員一丸となって頑張りましょう。)

そして、「新型交付税」。詳細はまだ明らかでなく、当市にとって有利か不利かわかりませんが、総務省が発表した「地方財政計画(8月仮試算)」によると交付税の総額が2.5%、これは総務省の要求ベースですから、この後財務省との折衝でさらなる切り込みがあるのは確実です。

しかし、この厳しい状況にあっても適切な市民サービスの提供は我々の責務です。また平成19年度からは市の最上位計画である「第五次総合計画」に沿った施策展開をしなければなりません。

この状況から脱出するために「スクラップ・アンド・ビルド」から「ツースクラップス・アンド・ワンビルド」への転換。かつては、経済成長に支えられ「ビルド・アンド・ビルド」、バブルが弾けて「スクラップ・アンド・ビルド」、今やマイナス成長の時代が訪れて「ツースクラップス・アンド・ワンビルド」。

これからは、小さくて効率的な行政を目指さないと。そして真に市民が求める行政運営を目指して。二つの事業を見直して、はじめて新規事業を立ち上げることができる。そして、一般会計の予算規模も最大であった250億円から200億円程度に大きく縮小しなければなりません。(龍ヶ崎市の歳入の実力は200億円程度、いやもうちょっと下回るかも？身の丈にあった財政運営をしなければなりません。)

でも、要望や利用者などが多く、効果的な事業を止めるわけではありません。利用者の少ないものや役目を終えたもの、新たな制度が望ましいもの、効果が薄いもの。事務事業すべてについて、検証を行えば必ず改善点は見つかるはずです。

市民や議会への説明・周知、内部調整など「スクラップ」には大変な労力が伴います。それを想像しただけで担当者自身が「後ろ向き」になっていませんか？

前例踏襲・現状維持では新たな施策の財源がまったくありません。(ゼロならまだしも、実質的にはマイナスです。)

将来に向けた施策を立案し、実現する。そんなプランを持つ担当者は大勢いると思います。その第一歩が「スクラップ」です。新年度予算の査定調整の際には、財政課の担当と大いに論議してください。

「財政健全化」と「市民のニーズ」、双方が反映した予算が組めるはずです。

日常業務で忙しくて、そんな暇はないと思っている人、その日常業務に見直す点はありませんか？
「こんなことしなくても」「こうやれば早いのに」と感じることはありませんか。どんどん意見を出しましょう。
ダメ出しされたらまた考えればいいんです。(手抜きや単なる愚痴はNGですけど)

先日、平成19年度予算の要求が出そろいました。ただ今、点検中です。平成18年度予算の要求ベースでは33億2千万円の財源不足でしたが、はたして今年は？

これから本格的な予算折衝となります。よろしくお願いします。<(_)>

しかし、皆さん、予算獲得も大切ですが、執行はもっと大切！！忘れないで下さい。

今までは、予算を獲得できれば、あとは使うだけ…。これからは、予算の範囲内でいかに効率よく効果的に執行できるかがポイントです。

この時期よく交わされる会話

A 課「来年も金無いんだろう？」 財政課「うん、厳しいねえ」(ひょっとして、なんか見直してくれるのかな) A 課「そうか、でもオレのところは何とかしてくれよ。他で削ればいいだろ、まあ頼むよ。」 財政課「……」(他ってどこだよ_| |)

B 課「 やりたいんだけど、要求したら予算つく？」 財政課「シーリングの範囲内で要求してよ」 B 課「いや、つくんなら要求すっかと思ってよ」 財政課「……」(そんな程度なら要求すんなよ_| |)

財政課「この要求なに？」 C 課「××から要望があったからさ、そのまま要求したんだ。まあ内容はよく見てくれよ」 財政課「……」(精査してから要求しろよ_| |)

D 課「どうだ、ウチは削るとこ無いだろ」 財政課「えっ、でもこの経費やけに多くない？」 D 課「ああ、それか、なんかあるとしょうがないから、とりあえずつけといてよ。余ったら返すから。」 財政課「……」(それが削るところだろ_| |)

E 課「来年見直すから、今年だけ」 財政課「……」(去年も言ってんだろ_| |)

～ ロード to 健全化 ～

ようやく、「財政推計」と「第二次財政健全化プラン」が完成し、議会への説明が終わりました。いろいろ質問を受けましたが、何とかご理解いただけたのでは？と思ったら、一般質問の予告をいただきました。(ToT)皆さんにもまもなくお知らせできると思いますが、皆さんの予想のとおり、大変厳しいものになっています。

推計では単年度で5億円に上る収支不足見込み…、また節減・節約の日々かぁ～…。

いやまて、増収の見込みもあるぞ。それに継続的な削減策・増収策を見つければ…。

簡単なことではありません。いやとても厳しいのは解っています。これまでの「財政健全化」の取り組みで「再建団体への転落」は回避できたと考えています。しかし、龍ヶ崎市の「財政健全化」は将来に向けた施策展開の財源確保が目標です。

先日、家でなにげなくテレビを見ると人気アニメの主人公が「困ったことがあったら、またいつでも呼んでね～」と言っていました。でも、龍ヶ崎市の財政が困っていても、誰も呼べません。職員全員が主人公になって厳しい時期を乗り切るしかありません。できれば、この「第二次財政健全化プラン」による改革で財政基盤を安定させて、次のステップに進みたいのが本音ですけど。

「頑張る職員」「頑張る市役所」のスローガンのもと、みんなの汗と知恵で財政健全化の目標を達成しましょう。

次号では、平成19年度の予算編成状況をお知らせする予定です。

では、また次号で・・・(^o^)/~